

特集「拡大教科書の作成及び教育的支援に関する研究」にあたって

弱視の児童生徒にとって非常に有効な教材として「拡大教科書」がある。これは、通常の教科書をもとにして、その文字を適切な大きさに拡大し、図版や写真等も拡大・最適化したうえで、それらを適切にレイアウトして作成するものである。この「拡大教科書」について、当研究所ではプロジェクト研究の一環として社会と理科の拡大教科書の編集・作成に直接携わってきており、また、国語と算数・数学についても編集協力を行ってきている。

弱視児童生徒のための「拡大教科書」の作成や教育的活用については、ここ数年内で、著作権法の改正や拡大教科書無償給与の方法等で大きな変化がみられてきている。

平成14年度から平成15年度のプロジェクト研究「弱視児の視覚特性を踏まえた拡大教材に関する調査研究－弱視用拡大教材作成に関する開発及び支援について－」や、平成16年度から平成18年度までのプロジェクト研究「拡大教科書作成システムの開発とその教育効果の実証的研究」の成果に基づき、これまでの拡大教科書作成の効率化や教育効果等について、①バリアフリー教材「拡大教科書」への取組の現状と課題、②拡大教科書作成の効率化・質の向上と作成支援ソフトウェアの開発、③拡大教科書活用における評価と配慮、という3つの観点から、バリアフリーの視点に立ったこれからの教科書編集・作成や教科書活用の実践に役立てられる知見をまとめた。

視覚に障害がある児童生徒の教育に当たっては、児童生徒一人一人の見え方に適合した教材をどのように活用するのが重要である。

本特集の拡大教科書編集・作成のノウハウや拡大教科書活用の配慮等の資料が、今後、弱視児童生徒等への指導の参考にして頂ければ幸いである。

